

古文書勉強会

乙川文書・西成岩文書共通のテーマ

平成28年**10月22日**

半田市立博物館

半田市文化財として乙川文書、西成岩文書があります。

内容は、

戸口(宗門改帳など)、土地(検地帳、名寄帳)

年貢(免定、調達金など)、村政(諸願、通達)

寺社、土木、人足・助郷、地図 等

乙川文書 2600余件

西成岩文書 900余件が保存されています。

博物館には文化財以外の古文書を含め調査済分として18,000余件保存されています。

本日の勉強会プログラム

乙川文書と西成岩文書と共通している文書

1. 免定
2. 調達金で苦しむ
3. 宗門送り(連絡書)
4. 宗門改帳(西成岩にもあったはず)
5. 製塩
6. 酒造
7. 詫び状 判決文
8. 分村騒ぎ ほか

申年免定 平地村

一高式百四拾三石九斗六升五合

取九拾石式斗六升八合

高三ツ七分

右庄屋小百姓立合以来言分

なきように無高下致割付

急度可皆納也

寛文八申十二月三日 福八郎右衛門

飯久左衛門

中与右衛門

申年免定 平地村

一高式百四拾三石九斗六升五合

取九拾石式斗六升八合

高三ツ七分

右庄屋小百姓立合以来言分

なきように無高下致割付

急度可皆納也

寛文八申十二月三日 福八郎右衛門

飯久左衛門

中与右衛門

その1:免定

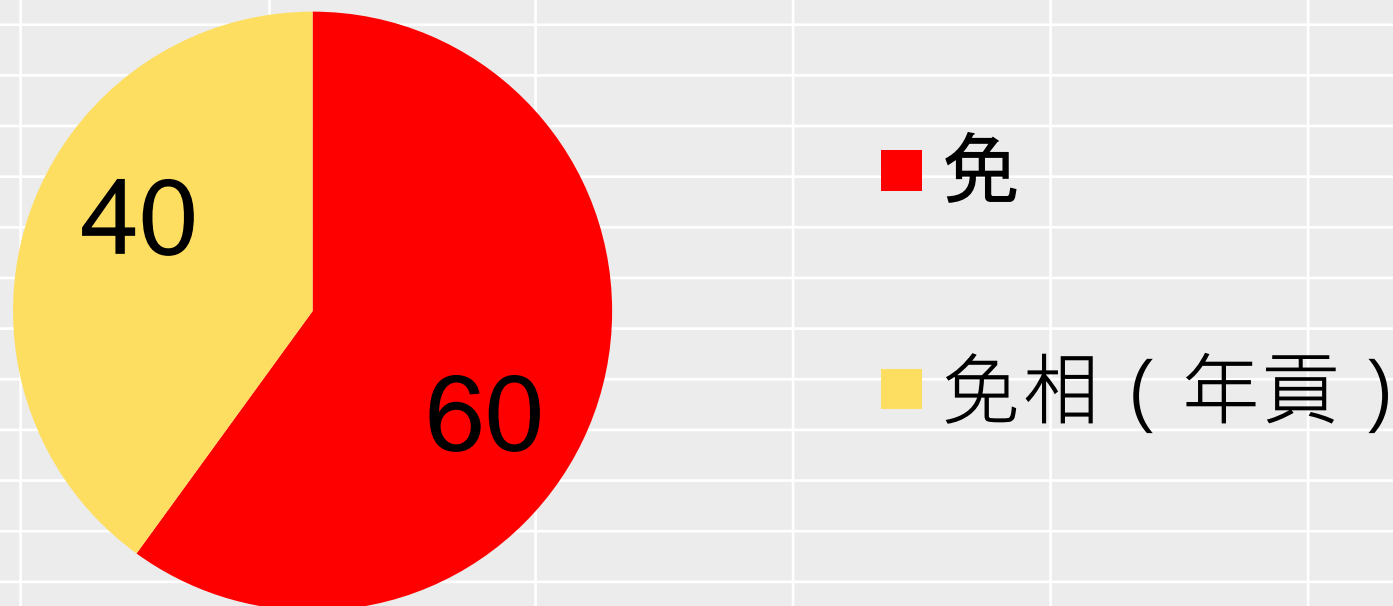
免の漢字の意味は、許す。

免定は、許す定め、となり、年貢の定めとは読めない。

以前は、免ではなく、免相(めんあい)とされており、その相がしだいに省かれて、免となったという説がある。

下の図のように全体の米の取れ高を100とし、免(許す)即ち農民の取分を60とし、許さない即ち免の相手(免相)が年貢であった。

免定は免相定の意味であった。



免定

免定

成岩村
西成岩分

一高八百石六斗七升九合

一高八百石六斗七升
九合

内

内

式拾八石七斗九合

式拾八石七斗九合

前々引

前々引

残高七百七拾壹石

残高七百七拾壹石

九斗七升

取米三百拾貳石

取米三百拾貳石

五斗六合

當巳年ヨリ西迄
五ヶ年極免

當巳年ヨリ西迄

五ヶ年極免

高三ツ九分三毛

同村
畑田分

同村畑田分

一高三拾五石六斗

一高三拾五石六斗

四升七合

取米拾五石三斗

取米拾五石三斗

一斗九合

當巳年ヨリ西迄
三ヶ年極免

當巳年ヨリ西迄

五ヶ年極免

高四ツ三分取

同村
小椋中

同村小椋山分

右庄屋小百姓至迄迄立

右庄屋小百姓至迄迄立
合以來言分なきよう

急度可皆済也

に無高下致割付
急度可皆済也

急度可皆済也

西成 4-17

西成 4-17

西成 4-17

その2 調達金とは

尾張藩は万治3年の名古屋火災、二代藩主光友の寺社建立、寛文2年の地震、寛文6年の洪水、元禄11年の将軍綱吉の江戸藩邸お成り、宝暦7年の冷害、宝暦12年の旱魃、明和2年の水害、旱害、天明3年の浅間山噴火に次ぐ冷害などさまざまな天災による農産物の減産、河川堤防の修復、江戸藩邸の出費などで財政が行き詰まっていた。

尾張藩は財政の赤字を幕府の下賜金や借金で賄った面もあるが、多くは調達金といって藩内外の商人、藩内の農民、藩士からの借金で賄ったのである。

博物館所有の古文書では、乙川村や西成岩村は相当の調達金に依拠していることが分かる。

調達金は借金であり、利息と返済が当然であるが、その実態は、そうとうずさんな内容であった。

調達金に関わる一つの物語

寛政4年1792年、尾張藩は、乙川村に、指示書を出しました。
「明和4年1767年から今までに出した調達金のリストを提出せよ」



乙川村は、これ幸いと、リスト「調達金覚」を提出
明和4年から寛政4年までに667両上納し、利息外130両余をいただいている、というリスト。



尾張藩は、仕法替えと言って、667両から支払分130両を引いて、540両につき、30年賦(30年で返済する)と言ってきた。



乙川村の古文書では、文化2年までは返済が続いていることが分かるが、それ以降は返済されてかどうか、わからない。

寛政4年 藩の調達金一覽表提出指示書

若し調達金いたし候者無之村々ハ其訳書付可差出候也

其村々之内明和四亥年以来調達金いたし候者之分

別紙案文之通半紙帳へ相認 来ル廿三日迄二可指出候

此状早々相廻シ納村ヨリ可返候 以上

十月十四日 井忠右衛門

別紙村々庄屋

若し調達はし候者無之村々ハ其訳書付可差出候也

其村々之内明和四亥年以来調達金いたし候者之分
別紙案文之通半紙帳へ相認 来ル廿三日迄二可指出候

十月十四日 井忠右衛門

別紙村々庄屋

寛政4年 乙川村の調達金報告書

覚

明和四亥正月調達 知多郡乙川村 徳左衛門

忠九郎

一金七拾五両也 年八分利

金貳拾四両 是迄被下候利金

内

六両	明和四亥年
六両	明和五子年
六両	明和六丑年
六両	明和七寅年

又

乙川村
 寛政四年正月調達
 一金七拾五両也
 年八分利
 是迄被下候利金
 六両
 六両
 六両
 六両
 明和四亥年
 明和五子年
 明和六丑年
 明和七寅年

報告書の最後の頁

右之通相違無御座候 以上

子十月

右村庄屋

吉三郎

同断

平次郎

井田忠右衛門様

右之通相違無御座候

子十月

右村庄屋

吉三郎

同断

平次郎

井田忠右衛門様

乙川村の調達金 まとめ資料より

寛政4年の

年号	年	西暦	調達金両	利率	利息受取	元金返済両
明和	4	1767	75	8% 明和7年迄	24両	
	4		130	8% 明和7年迄	41両2分6匁	
	5	1768	55	8% 明和7年迄	11両	
	5		20	8% 明和7年迄	4両	
	5		120	8% 明和7年迄	24両	
	6	1769	20	8% 明和7年迄	2両1分9匁	
	6		10	8% 明和7年迄	1両12匁	
	安永	5	1776	23		利払いなし
安永	7	1778	10	10% 天明3年迄	2両1匁	安永7年
安永	7		15		利拂いなし	
安永	8	1779	30	8% 寛政4年迄	9両12匁	
安永	8		30	8% 寛政3年迄	7両12匁	
寛政	元年	1789				
	2	1790	50	8% 寛政3年迄	4両1分5匁	
	3	1791	50			
	4	1792	29			
合計			667			

別の報告會ニ調達
金證文(写)

後取申金子之事

文金七拾五兩也

右者依御用為御借上金受取申候利息之儀者壹ヶ年八歩之積当亥暮元利共可被返下所仍如

明和四亥正月

松村 弥左衛門
加藤 仁右衛門
鈴木 元右衛門
田中 仁左衛門
国宮 仙右衛門
大橋 新之右衛門

乙川村

徳左衛門殿
忠九郎殿

請取申金子之事
文金七拾五兩也
右者依御用為御借上金受取申候利息之儀者壹ヶ年八歩之積当亥暮元利共可被返下所仍如件

明和四亥正月松村弥左衛門

加藤仁右衛門

鈴木元右衛門

田中仁左衛門

国宮仙右衛門

大橋新之右衛門

乙川村

徳左衛門殿

忠九郎殿

別の報告會：調達
金證文(写)

覚

安永七戌十二月調達

一金十五兩也

右之分御證文吟味仕候得共 相見へ不申候

依之御断申上候 以上

亥十一月

乙川村 徳左衛門

井田忠右衛門様

是

安永七戌十二月調達

金證文

右之分御證文吟味仕候得共
依之御断申上候

亥十一月

乙川村

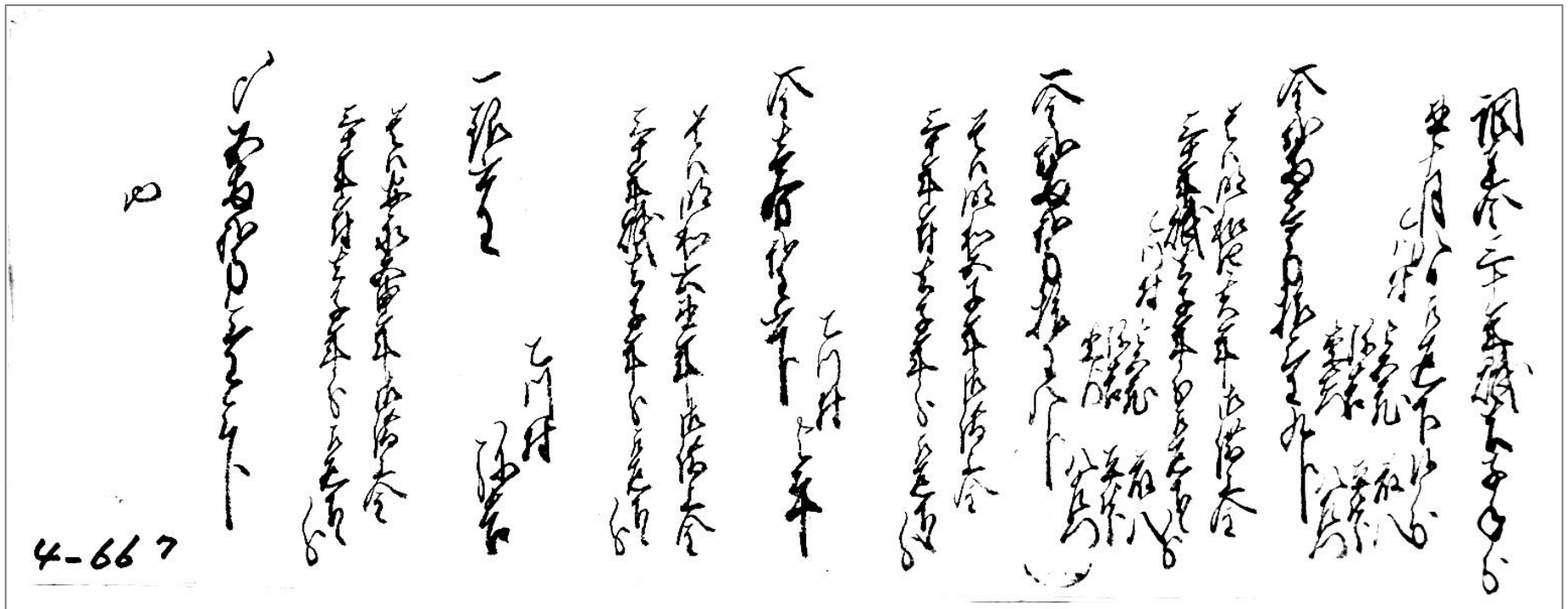
徳左衛門

井田忠右衛門様

この報告が出されて、どうなったか

13年後の文化2年(1805年)、

乙川村は、調達金三拾ヶ年賦被返下割賦渡シ帳という帳面に結果が記されている。



文化二年 乙川村

調達金三十拾ケ年賦被返下割賦渡シ帳

丑十月 庄屋 義平治

藤八 扣

調達金三十年賦去子年分

丑十月八日被返下候分

乙川村 与五蔵 藤八

弥吉 平次郎

杵右衛門 八左衛門

一金貳両壹分拾三匁九分

是ハ明和四亥年御借上金

三十年賦去子年分被返下候分

乙川村 与五蔵 藤八

弥吉 平次郎

杵右衛門 八左衛門

一金貳両貳分拾匁八分

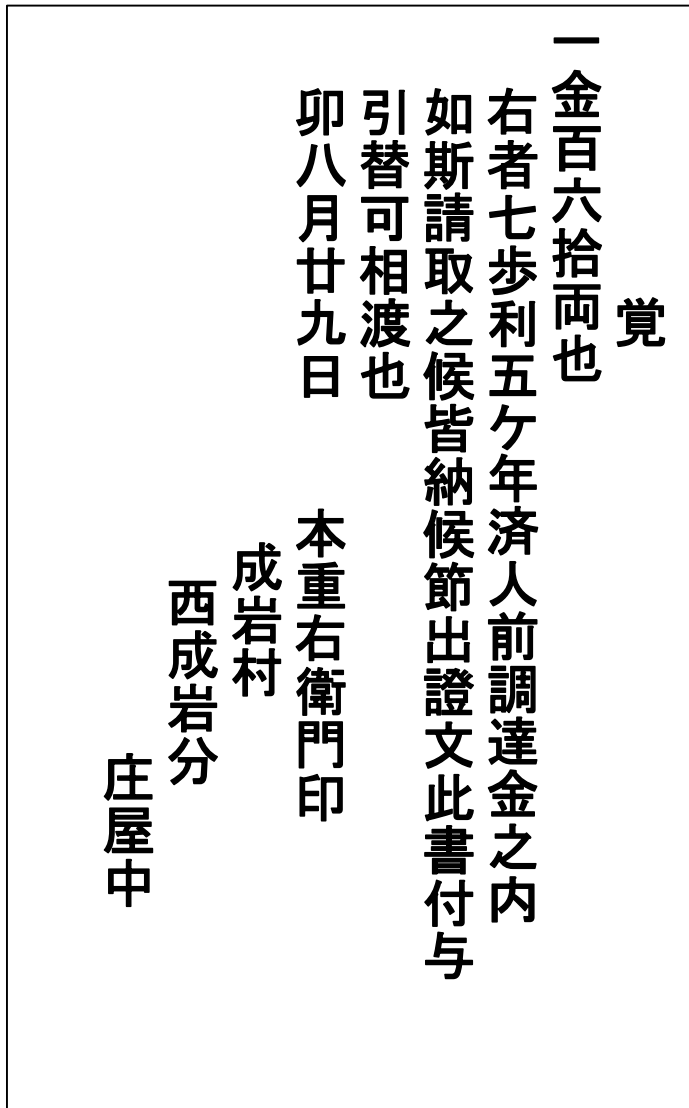
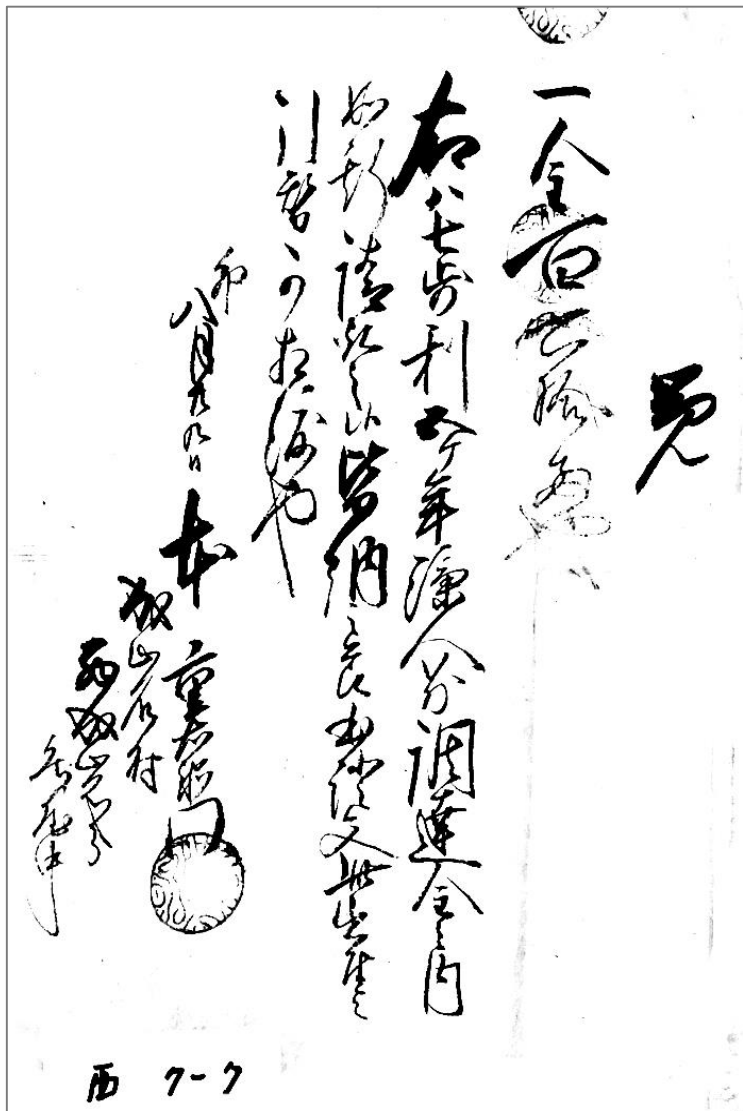
是ハ明和五子年御借上金

三十年賦去子年分被返下候分

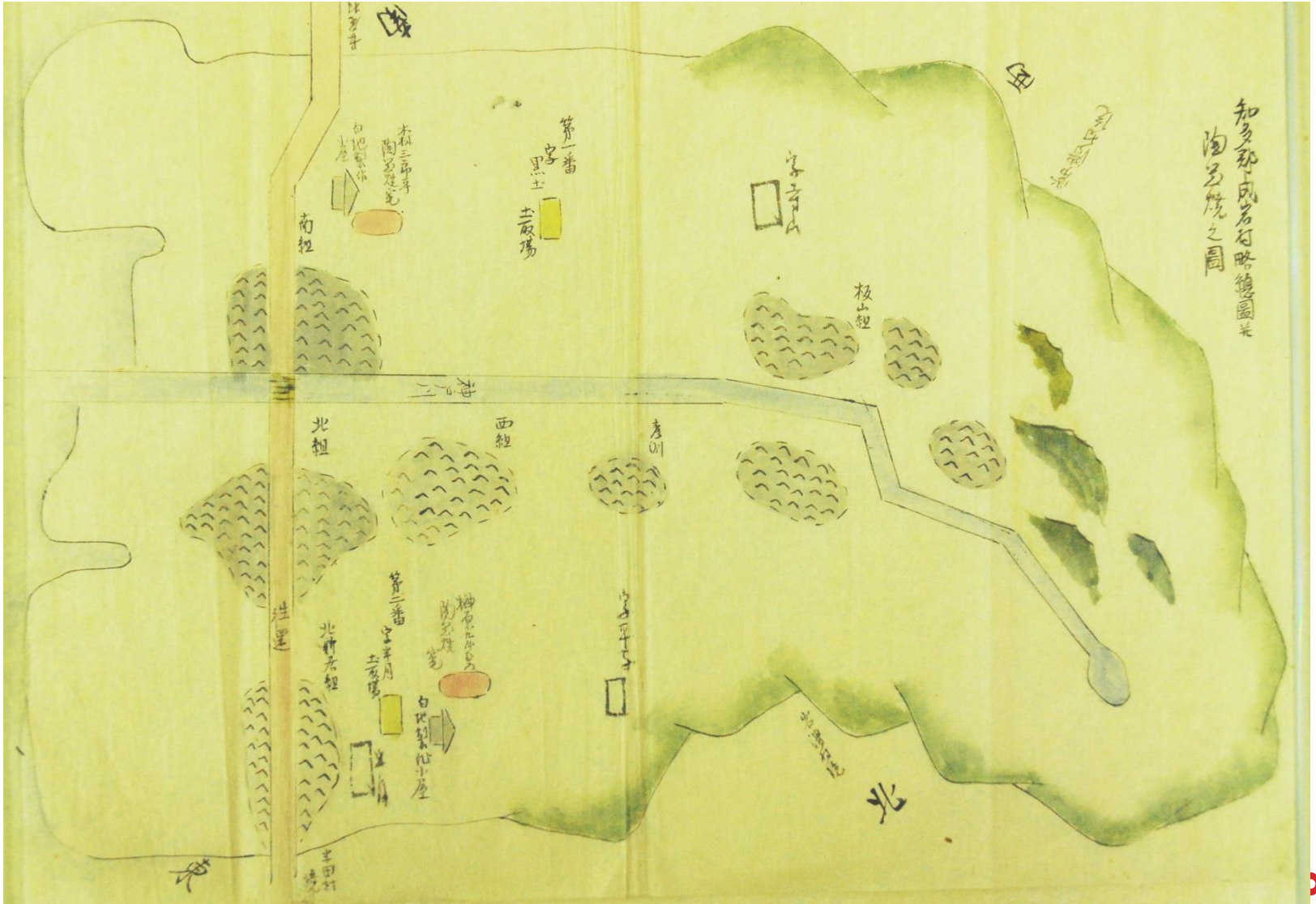
寛政4年(1792年)から13年後の文化2年(1805年)の調達金三十拾ケ年賦被返下割符渡シ帳…乙川文書資料No.4・667を見ると、返済は継続したと思われる。

継続はされているものの、30年賦であり、乙川村の貸主は困窮していたと思われる。

西成岩村の調達金



村絵図 成岩村



その3 乙川村、西成岩共通、宗門送り(状)

送藉御願

日縣第七大區四小區知事
岩倉知事官務長兼事務長

農 渡邊太右衛門

乙川八幡文
寺殿神主宗門送り

長女乃名
南成下紫原

右 乙川七段南原第七大區四小區
成川村字乙川宮前所中福生寺
御祖中合候月送藉之儀奉願仕

明治七年戊午

渡邊太右衛門

南村

副戸長

御申

右 乙川相違年々候月送藉仕

吉野副戸長
柳原太兵衛

同區成岩村
副戸長

御申

西 1-69

送籍御願

氏神八幡宮

寺成岩村真宗無量寿寺

同県第七大区四小区知多郡

岩滑村貳百六拾六番屋敷二居候

農 渡辺太右衛門

長女 ゑい

当戌廿貳歳七ヶ月

右之者今般当県第七大区四小区

成岩村貳千百八拾三番地所中祢重左衛門方江

縁組申合候間 送籍之儀奉願候也

明治七戌年七月

渡辺太右衛門 印

当村

副戸長

御中

右之通相違無之候間送籍候也

右邨副戸長

榊原太兵衛 印

同区成岩村

副戸長

御中

宗門送り:嫁入り、養子、出稼ぎ時

一 為村十玉堂所懸十條之石南堂字年
 抄如宗文之收之山村方利其方以嫁子
 齋之山有老宗有老代以後宗高所
 東麓寺且非 孫曾官勿備
 所別禁切并宗門 勿月之老之
 世之舊切之為村宗帳高其抄除之
 山村方清悟之加以後之支配之
 為後日一札也

文政十年 三月 平仲九吉
大智村石文

城岩村
 湯石五郎

西成 1-22

一当村十玉堂町甚十妹とわ当亥三十一歳
相成候處今般其御村方利左衛門方江嫁付
參申候右之者宗旨者代々浄土宗当所
東竜寺旦那二紛無御座勿論

御禁制切支丹宗門筋目之者二而者

無御座候就之当村宗門帳当春ヨリ相除申候間
御村方請帳江御書加以後御支配可被成候
為後日一札如件

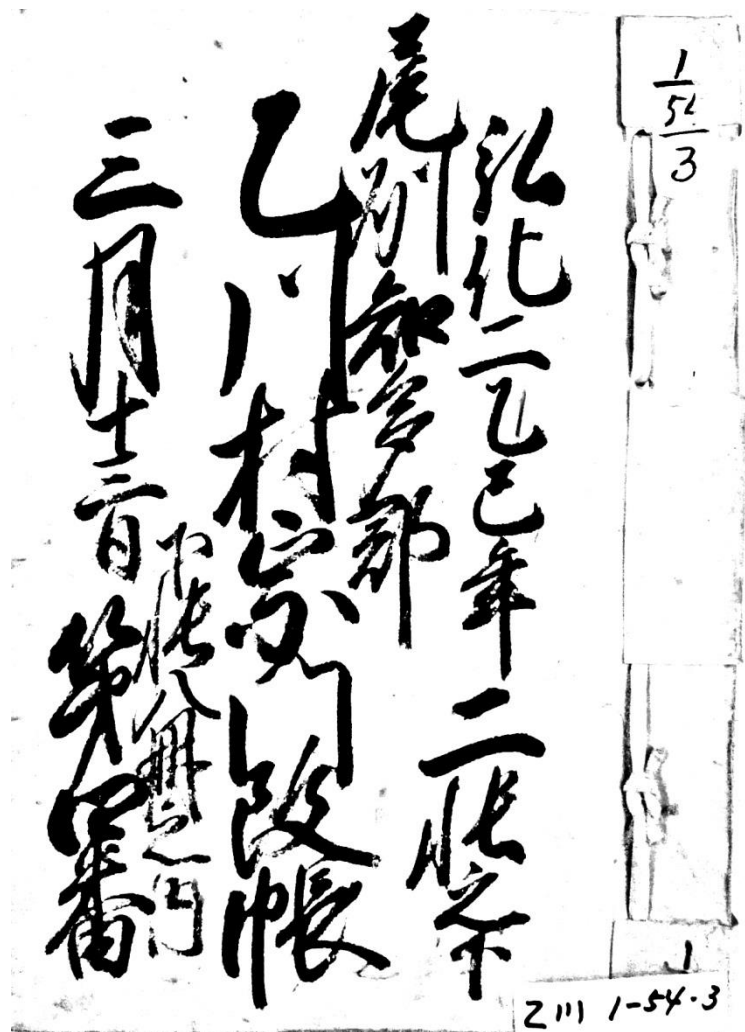
文政十年亥二月 大野村庄屋

平野彦右衛門 印

成岩村

御庄屋中

その4 宗門改帳（住民台帳）



弘化二乙巳年 二帳之下
尾州知多郡
乙川村宗門帳
三月十三日 下帳八冊之内
第四番

宗門改帳

旦那寺	旦那寺	旦那寺	旦那寺	旦那寺	旦那寺
同断	同断	同断	同断	同断	同断
男子惣太郎年四ツ	女子惣太郎年七ツ	女子惣太郎年七ツ	女子惣太郎年七ツ	女子惣太郎年七ツ	女子惣太郎年七ツ

当村浄土宗	無高 <small>高</small> 掃百姓
旦那寺光照寺	文右衛門年四拾七
高三斗九升七合五勺	文右衛門
旦那寺 同断	文右衛門
旦那寺 同断	女房年三拾九
旦那寺 同断	文右衛門
旦那寺 同断	男子文次郎年拾壹
旦那寺 同断	文右衛門
旦那寺 同断	女子ちう年七ツ
旦那寺 同断	文右衛門
男女五人	男子惣太郎年四ツ
	文右衛門

住民台帳の機能
 出生、死亡、嫁入りなど追記されて
 いきます

宗門改帳

五人
 傳七
 傳七
 傳七
 傳七
 傳七

五人壹組
 平三郎
 儀左衛門
 傳七
 文右衛門
 嘉平

乙川村と成岩村が似ている点

尾張巡行記(文政5年1822年)によると
乙川村、成岩村ともに、塩浜(塩田)があった
乙川村、成岩村ともに、酒造家が数軒あった

塩屋(塩竈)尾張名所図会より



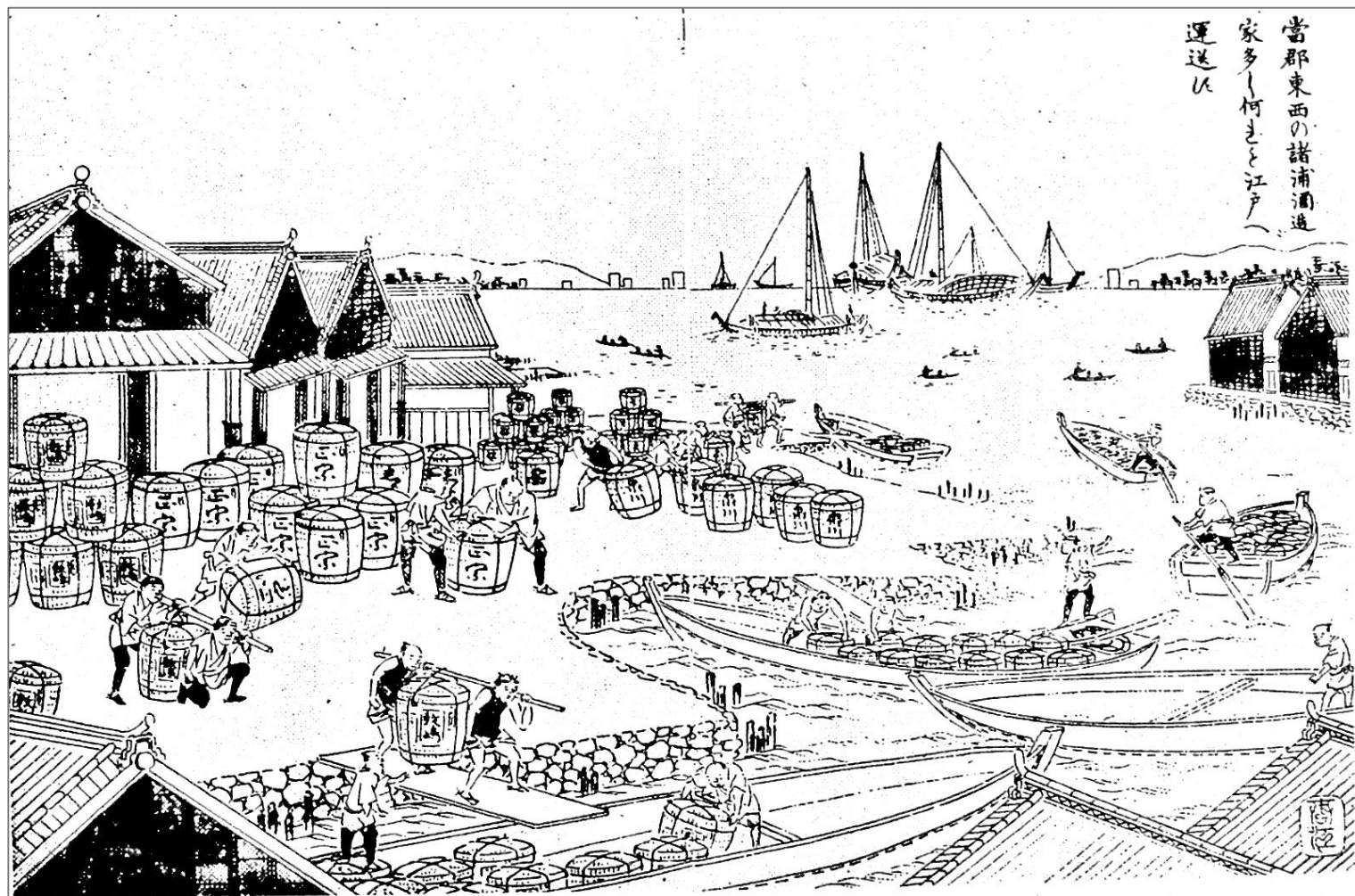
生路塩竈の古覽

延喜大膳式云

東寺中台立佛左方
 五菩薩右方五念怒
 料生道鹽日別五合
 七勺海落六兩滑海
 藻十二兩未醬四合
 五勺醬一合五勺
 右每年十二月以前計
 來年日數申官行之

梅逸寫
 逸桿

尾張名所図会 知多酒船積の図



當郡東西の諸浦酒造
家多し何れも江戸へ
運送須

知多酒船積の図（蓬左文庫所蔵『尾張名所図会』より）

尾張徇行記

乙川村の記載

此の村は東南云々中略
 最も農業を以て生産とし其の余業には塩
 浜かせぎをする者数多あり、又酒屋七戸
 あり是は多く江戸へ積送りし とある

村

一古戸二百五十八戸八百三十四牛馬百四匹
 今戸九百七十三千九百九十九牛馬千匹
 一此村は東南ニ海ヲトカハ平河ノ地ナリ本郷
 八有脇村ヨリ山越ニ至ル東浦街道トホ
 リニアリ一村ヲ所ニ屋ナクソロビタル村
 ナリ高ニ准シテ戸口多クテ佃力足レリ
 最農農業ヲ以テ生産トシ其業ニ鹽
 濱カセキラスル者モ数多アリ又酒屋七戸
 アリ是ハ多ク江戸へ積送り其外ニ夫郷
 ナル種々小商ヒラスル者モアリユニ船
 ナリ波不知船ニ七八十石積三艘アリ藻
 採船ハ三三艘モアリ此邊ノ海ハ藻草
 アチ藻青海苔ト生スル故是ヲトリ
 田畑ノ土糞トス其外土糞ニ津以醬
 酢粕ヲ専ラ用ヒ干醜ニ向テ用ヒ又
 支邑ヲ平地新田向山飯森道ニ新



尾張徇行記 成岩村の記載

中略
酒造屋は五戸あり、皆江戸積をするなり、
中略
塩浜かせぎを以て大小百姓専ら生産とす
とある

小板山本板山大湯日役ト云此内西成岩
本郷ヨリ西ノ方神ノ川ノ北ニアリ小板山大板
山大湯ハ是モ本郷ヨリ西ノ方ハ一區ツニ
ツキ神ノ川ノ南ニアリ日役ハ西成岩ノ西
神戸川ノ北ニアリ此支邑ハ皆小百姓ハカリ也
此成岩村高準ニテ本郷支邑共ニ六農
夫數多アリテ他村ハ田畝ヲ授ルコトモキク
長尾村ハ田畝ヲ承仰スル也又船カセキヲ
スル者モアリテ四十石積波不知船ニ艘六
十石積波不知船一艘持ル者ヨリ酒造
屋ハ五戸アリ皆江戸積ヲスル也其工匠ノ類
モ佳ヲナシ大工十七人木挽二人桶師六人其
外七官鍛冶墨置刺士トモアリ其外ハ鹽濱
カセキヲ以テ大小ノ百姓専ラ生産トス

一此村高ハ本成岩分本板山替地新田西成岩
分畠田板山北新居分替地新田トハツニワカレ
リ本成岩分高千四百八十九キ四升四合此
田畑百廿六畝六段六畝廿一歩キリ田面ノ字ヲ

知多郡

乙川村塩浜

前潟江浚

一長貳百五拾間

堀 口三間
底貳間
深壹尺五寸

出来八軒曲輪悪水
落杵敷上端ヨリ壹
尺四寸深上五軒曲
輪悪水落杵敷上端
ヨリ八寸深下八水
行改

土
人六百貳拾人

同所海面

一長三百間

巾成貳間
深壹尺五寸

追加 27-3

知多郡

乙川村塩浜

前潟江浚

一長貳百五拾間

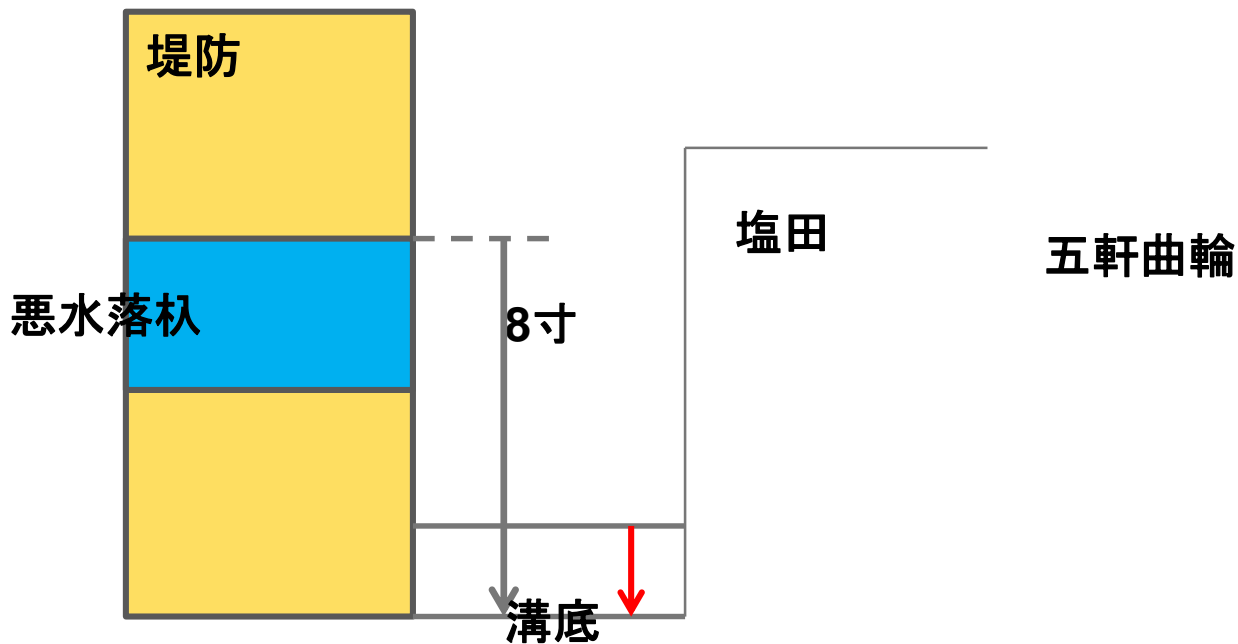
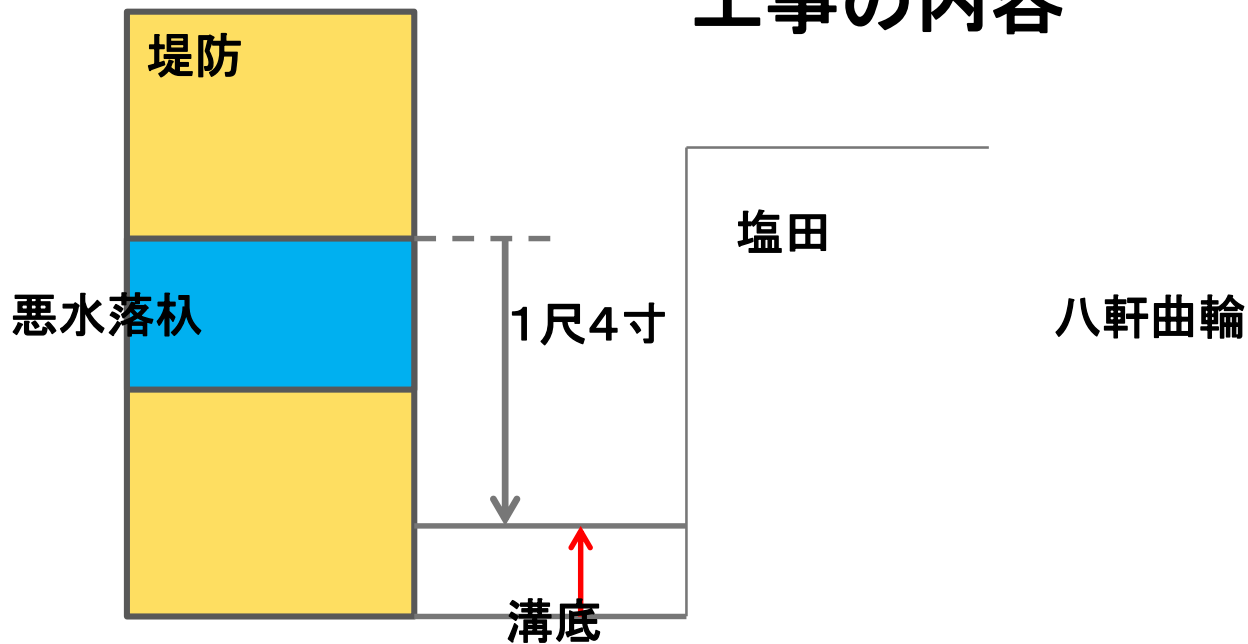
堀 口三間
底貳間
深壹尺五寸

出来八軒曲輪悪水
落杵敷上端ヨリ壹
尺四寸深上五軒曲
輪悪水落杵敷上端
ヨリ八寸深下八水
行改

土
人六百貳拾人

同所海面
一長三百間
巾成貳間
深壹尺五寸

工事の内容



多量に年々焼立

三万俵分

三万俵と

凡年々ならずし、此後後

此後年々ならずし

尤御年貢塩別段焼立

捌き方

凡今今より年々

此金高五百兩位

三万俵位

捌き方

三万俵位

桑名

三万俵位

日光

三万俵位

岡崎

三万俵位

成岩村の塩浜
:塩生産量

当村塩年々焼立

壹万俵分

三万俵迄

凡年々ならずし、三万俵

頭升(叭力)壹斗壹升

両二貳拾三俵かへ方

六拾俵かへ位迄

ほ、両二四拾壹俵半なる

此金高五百兩位

尤御年貢塩別段焼立

捌き方

壹万五千俵位

名古屋

一色

日光

三千俵位 岡崎

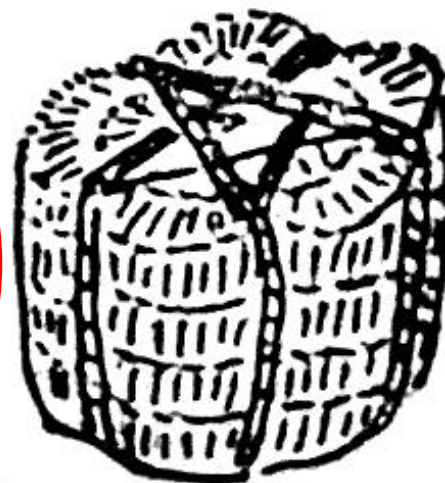
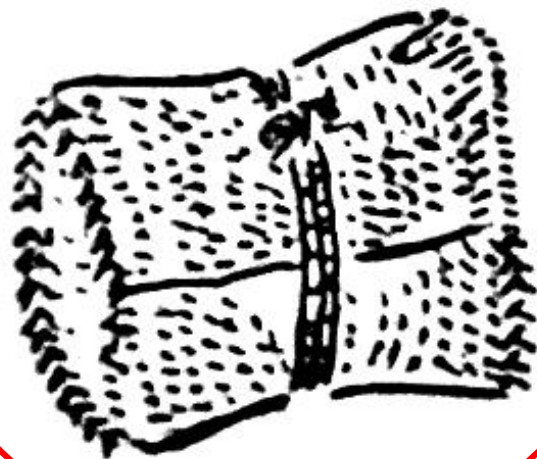
桑名

貳千俵位 地所 □

×貳万俵

凧(かます) 筥(むしろ)を折りたたんだ形

凧仕立



小俵仕立



米俵仕立

酒津出シ御頼奉御達

一酒百六樽

伊助

内訳

酒拾樽

日 日 日 日 日 日

酒拾樽
一酒百六樽

中三郎様
同平三郎様
同重三郎様
大浜村
八三郎様
亀崎村
富吉様
久太郎様
銀七郎
百六樽也

右之通今般津出し
仕り度御進中申上候
御達申上御改奉願上候

三月

伊助印

酒造
大行司衆中

箱4-107

その6
成岩村の
酒造文書

絵図面 乙川村



証文 詫び

証 券 界 紙

證書 成産お

A 男

永後

先般

B 男

成書 C

子之成産

生事より成産なるに就て

満ちたる成産共後被る是れ得

由事成産より成産所成産

成産成産は成産成産成産

成産成産 C 子成産成産

成産成産成産成産成産

成産成産成産成産成産

B 男 成産成産成産

成産成産成産成産成産

成産成産成産成産成産

成産成産成産成産成産

成産成産

成産成産

親成産

A 男 印

成産成産

成産成産

印

成産成産

證書 成岩村

A男

私儀

先般 B男 殿妻 C子 二姦通シ

候事 **露頭二為被候處** D男 殿扱吳事

濟二相成然ル處其後彼是差入組之

出来候事半田他所江聞へ御召出シ

相成厚ク御説諭被仰聞何共奉恐入候

向後右之C子二付毛頭故障無之ハ

勿論如様之儀二有之候共決而

接近談話等不仕候因而御憐憫ヲ以

B男 家相続方可相成様

被成下度伏而奉願候万一前頭之

表二相背候儀有之者此證書ヲ以而

破證トシ県庁江御訴訟ニ相成候

共一言之恨ニ申間敷候為後證之

依而如件

明治九年子八月

A男 印

親類證人 印

伍五長 印

当使村方

副戸長御中

世之末身

生寂

A男

厚心不讓密通

私儀

以多者形之乃知

D男

反形

以是則以如也 物多受其信彼

是乃身力如也 身力以多半田此形

一字以有規也 規厚乃所說流以

作身何其身也 不向後心以

乃身何其身也 乃身何其身也 A男

山終極法則乃決乃身也 乃身何其身也

夫之身終極也 見之撫育之極也 乃身何其身也

字者如孩多終可也 乃身何其身也

如者以多者也 乃身何其身也

其一言也 乃身何其身也

其一言也 乃身何其身也

B男

C子

以多者也

位五長

世之末身

副戶長所中

誓書

私儀

先般 A男 様卜不儀密通仕
候事露頭ニ及候処 D男 殿取扱
被吳濟口ニ相成然ル處其後彼
是尚入組出来候事半田他所
二聞へ御召出ニ相成厚ク御説諭被
仰聞何共奉恐入候向後ハ改心仕
如何様之儀有之候共右A男殿卜
近誘接話等決而不仕候無論
夫之意ニ従子ヲ撫育シ成栄ヲ励ミ
家業相続急度可仕候万一右誓文ニ
相背候事有之ハ如何様被仰付候
共一言之恨申間敷候為後證
誓書仍而如件

B男妻

C子

明治九年八月

伍五長 ×××

当御村方 副戸長御中

乙川文書 判決書

右に去^レ二月間即中後村
高尾守書字掛^テあり
法文^ニ示^シ法^ニ示^シ九^ノ石^ノ石^ノ
跡^ノ掛^テ中^ノ後^ノ村^ノ
七月^ノ廿^ノ日^ノ

中後
高尾守書字掛
A 助 牌
B 助

申渡

知多郡乙川村

A助倅

B助

右八去ル三月同郡長尾村
甚七所表竿二掛ケ有之候
諸色三品盜取不届二付
式拾敲申付候者也

七月六日

分村騒ぎ

愛知縣第七天區四馬

尾張國知多郡成岩村

西成岩分

今程西成岩分他程裁言有之
 西成岩分并程神高程程程程程
 西成岩分今程西成岩分裁言有之
 西成岩分已後屋造同極程程
 西成岩分以裁言程程程程

西成岩分今程西成岩分裁言有之
 西成岩分并程神高程程程程
 西成岩分今程西成岩分裁言有之
 西成岩分已後屋造同極程程
 西成岩分以裁言程程程程
 西成岩分今程西成岩分裁言有之
 西成岩分并程神高程程程程
 西成岩分今程西成岩分裁言有之
 西成岩分已後屋造同極程程
 西成岩分以裁言程程程程

愛知県第七大区四小区

尾張国知多郡成岩村

西成岩分

- 一 今般西成岩分他組江越高有之
- 候二付北阿ら井組初南組板山組已上
- 三組申合セ西成岩分越高ヲ引取
- 配当致シ已後属邑同様ニ取扱
- 度存意ヲ以此度難題ヲ申掛ケ
- 西成岩分必至難渋之場合ニ付
- 一 応御縣廳江歎願申上
- 従前之通り西成岩村一手ニ仕度
- 存心ニ御座候間村内者共一同
- 連印確定仕候ニ付而者若一
- 逆中ニ於為天違約変心之者
- 出来候ハ、其者之所持物者
- 申ニ不及田畑家財屋敷ニ到ル

是村有月引揚子之如何
極成 四封之書 為好之口也

後日為念之信有遠近不離也

明治八年

乙亥二月

信書

新傳松野

松野庄

柳京治書

柳京伴書

柳京治書

吉岡侯書

柳京八書

柳京書

柳京書

迄村方江引揚ケ其上如何
様成罰二天茂承リ可申候

後日為念之依而連印確定候也

明治八年

乙亥ノ三月

伍長

稻沢松助 印

// 榑原庄七 印

以下村民連 印

副戸長

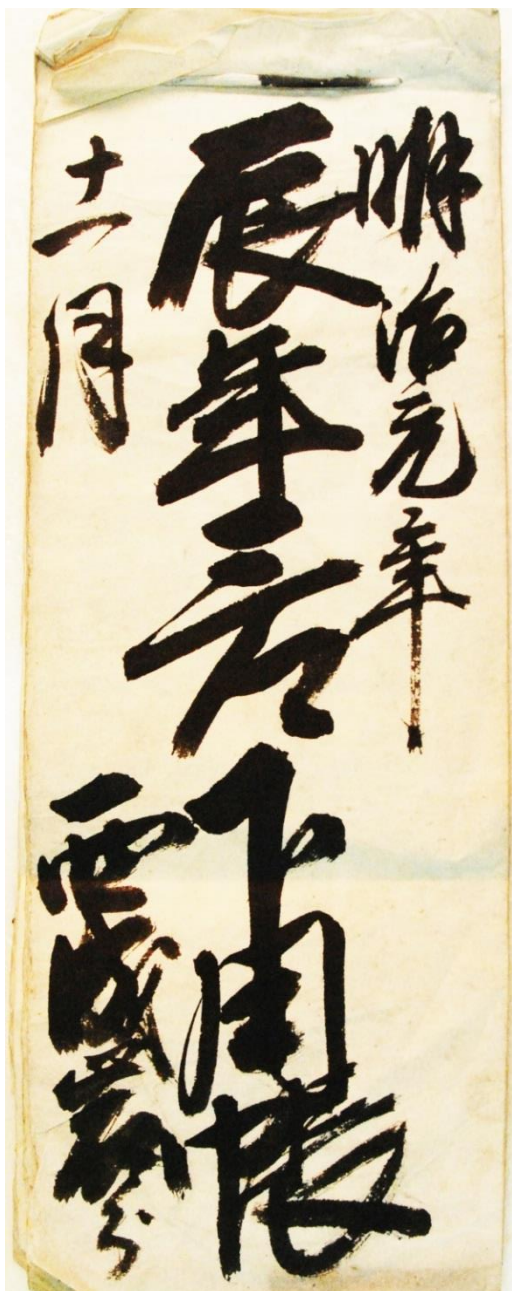
榑原八郎

同断

土井傳兵衛

帳用下郷三辰年

西成岩文書資料Z05-18
明治元年
辰年三郷下用帳
十一月 西成岩分



辰年三鄉下用帳

正月
 三鄉下用
 二月
 三鄉下用
 三月
 三鄉下用
 四月
 三鄉下用
 五月
 三鄉下用
 六月
 三鄉下用
 七月
 三鄉下用
 八月
 三鄉下用
 九月
 三鄉下用
 十月
 三鄉下用
 十一月
 三鄉下用
 十二月
 三鄉下用

辰年三郷下用帳

一 辰年三郷下用帳
代金
二 辰年三郷下用帳
代金
三 辰年三郷下用帳
代金
四 辰年三郷下用帳
代金
五 辰年三郷下用帳
代金
六 辰年三郷下用帳
代金
七 辰年三郷下用帳
代金
八 辰年三郷下用帳
代金
九 辰年三郷下用帳
代金
十 辰年三郷下用帳
代金

辰年三郷下用帳

Handwritten calligraphy in cursive style (草書), likely representing a ledger or account book for the Year of the Dragon (辰年). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of cursive script.

Column 1 (Rightmost): 砂中下 傳字

Column 2: 辰年三月廿五日

Column 3: 辰年三月廿五日

Column 4: 辰年三月廿五日

Column 5: 辰年三月廿五日

Column 6: 辰年三月廿五日

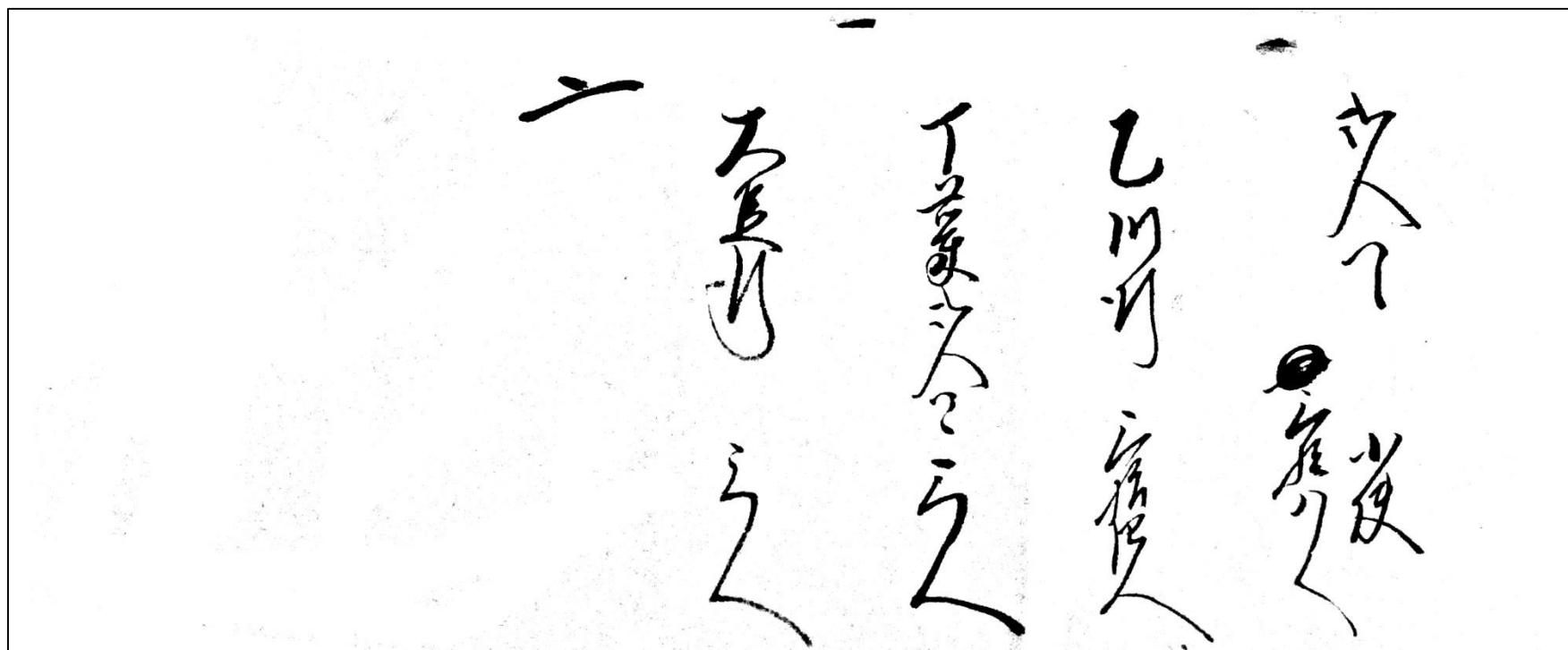
Column 7: 辰年三月廿五日

Column 8: 辰年三月廿五日

Column 9: 辰年三月廿五日

Column 10: 辰年三月廿五日

辰年三郷下用帳



辰年三郷下用帳

辰二月 千賀与八郎様

御休泊入用

一 席料 常楽寺

金壹両貳分

一 茶壹折

代 四拾五匁

一 御菓子三折

代 三分卜六匁

一 白米壹石七斗五升

代

一 割木百五拾束

代 金壹両三分卜拾匁

一 炭五俵

代 金壹分貳朱

一 味噌溜り

代 金三分

辰年三郷下用帳

一 大根付百五十本
代七〆五百五十文
一 干大根三拾本
代壹〆文
一 生揚九十
九〆六百七十八文
一 口物五十
五〆五百文
一 津代
三〆八百文
一 蠟燭四箱
代壹兩貳分卜六匁
一 貳分卜貳匁四分
貳百文 米市

辰年三郷下用帳

拾匁貳分

貳百五文

作五郎

百三拾貳匁八分

善平

引ノ七百四拾九文

升善

壹匁八分九厘

五拾三匁七分八厘

角岩

貳貫六百

三百文

幸助

酢や

八百文

北 酢屋

三匁

菓子料

夜具

五拾人前

辰年三郷下用帳

式人ツ、	小使
乙川行	三拾八人
丁菜式人ツ、	三拾四人
大足行	三人
〆	三人